

平成 28 年 12 月市長定例記者会見

日 時：平成 28 年 12 月 1 日（木）午後 1 時 30 分～ 2 時

場 所：射水市役所 302 会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、富山テレビ放送、射水 C A T V、エフエムいみず、ホットライン小杉

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、農林水産課 農政係長、消防本部 本部課長、消防本部 課長補佐、未来創造課長(司会)

○質疑応答の概要

Q1. 市長が思い描く将来ビジョンの中で、婚活サポーターズクラブにどのような役割を期待しているか。

A1. サポーターズクラブのみなさんには、わかりやすく言うと「おせっかい」を期待している。最近は若い方々が消極的であると言われ、そもそも出会いの機会がないと話す方もいる。そうした中で出会いの場となるようなイベントや事業の企画をしながら開催する。また、そういったものに取り組もうとする団体と連携を図りながら機会を作っていくということ。仮にカップルになってもその後うまくいかないこともあると思うが、そういったことについての相談やアドバイスをしてもらおう。ゆくゆくは結婚を希望する方の情報を登録していただいて、情報の突合せ、出会いにつなげていくということも考えている。そうした中で情報をいろいろな方にアピールしていただきながら、登録していただき、カップルにつなげていく。サポーターといいながらもカップルを結びつける大きな役割を期待している。今回は設立ということでサポーターは 20 名程度の方であるが、熱意のある方に参加していただきながら 1 組でも多くのカップルが上手くいくようにサポーターズクラブと連携しながら取り組んでいきたい。（市長）

Q2. 先日、射水市議会では政務活動費について後払い方式を提案し可決された。市の財政に注目が集まる中で、県内の自治体に先駆けて後払い方式を採用したことについて市長の率直な気持ちを教えてほしい。

A2. 後払い方式は、使い切らなければいけないという意識が先払い方式では働いてしまうが、そのような意識を抑止するという意味においても効果があるという事だった。政務活動費そのものは議員の方々がしっかり

市民の声、地域の課題、ニーズを捉えつつ、先進事例などの研究をされながら射水市のよりよい施策、事業へ反映させていくために必要な経費であると捉えている。正しく活用していただきながら調査研究を進められ、市政運営にご指導いただけたら良いと思っている。後払い方式にされたことについては、議会として検討され、自ら市民の信頼を得るべく身を律されたと思う。議会の姿勢については、しっかり尊重させていただきながら、不正の無いように政務活動費の執行や交付を議会や議会事務局それぞれと連携しながら舵をとっていく所存である。（市長）

Q3. ふるさと納税について、自治体間の税収の奪い合いにつながるのではないかという声もある。市長はふるさと納税への意義についてどのように考えるか。どのような効果を期待しているか教えてほしい。

A3. 射水市としては、まず射水市の施策であったり、まちの魅力への理解をいただいた方に寄附をいただくと考えているので、制度そのものについては活用させていただきながら射水市のファンを広げていきたいと考えている。返礼品についても行き過ぎないように限度を考えながら、一方では、返礼品を見ていただくことで市内の特産品を多くの方に認識していただき、PRにもつなげていければと思い取り組んでいる。良い面を発揮していけるように今後も取り組んでいきたいと思うが、冒頭のような指摘もあるので十分注意しながら制度を活かして射水市のファンを増やしていきたい。（市長）